令和４年度　第５回　伊賀市多文化共生推進プラン委員会　議事概要

日　時：令和４年 12 月 27 日(火)　午前 10 時～11 時 45 分

場　所：伊賀市役所本庁２階　202・203 会議室

出席者：オチャンテ村井委員、和田委員、井上委員、西岡委員、福永委員、峰委員、上出委員、森永委員、吹上委員、船見委員、竹井委員、金谷委員
（欠席：辻岡委員、尾登委員、グエン委員）

内　容：

１．あいさつ

〇委員長あいさつ

〇会議資料の確認

２．報告事項

(1) 2022 年度外国人住民アンケート結果について

〇当日配布資料の説明（事務局）

(2) 多文化共生推進プラン第１期（中間案）パブリックコメント結果について

〇資料１の説明（事務局）

３．議事

(1) 多文化共生プラン第１期（最終案）について

〇資料２の説明（事務局）

〈質　疑〉

委員長　　委員の皆さんから、ご意見やご質問などはないか。

委　員　　26 ページの高校の進学率のところは、伊賀市内の中学校を卒業し「進学を希望する生徒のうち」と入れてもらえないか。進学を希望しないで、子どもや家庭が就職を希望した場合は、ここに入らない。そのような子が毎年２人ぐらいいるのでご検討いただきたい。

事務局　　おっしゃったように、「進学を希望する」ということで、訂正する。

委員長　　その他にどうか。

委　員　　32 ページの上の「やさしい日本語」について、この「一般向け」とは何か。例えば、ボランティア協議会や地区、住民自治協議会などの単位では結構されつつある。私も、この間、島ヶ原のボランティア協議会で２時間弱ほどさせていただいた。そこはボランティア協議会だけに対してで、一般募集はしていないのだが、そのようなものも成果というか、広がりという意味では、何らかカウントできるとよい。結構、自治協が取り組んでいただいている。

事務局　　人数把握をしていきたいと思っている数値であり、委員が把握されている数字もあると思うので、そのようなところも教えていただければ、追加できれば追加していく。

委員長　　ありがとうございました。

委　員　　「やさ日」関連で、行政向けと一般向けはどのような線引きか。例えば、私は学校で「やさしい日本語研修」をたくさん行う。それは、行政向けになるのか。先生方への研修であり、教育委員会が主催で、年に2回プラス個別の学校に夏休みだけで3校呼ばれた。ほぼ全員参加である。そうすると、相当人数が上がってくるが、これは一般向けに上げた方がよいのか、行政職員向けなのか。

事務局　　行政である。

委　員　　でも、学校でもされていることも言った方がよいのではないか。参考値でもよいかもしれない。行政内でも、今まではほとんどやっていなかった。3年前はあまりやっていなかったけれども、今はこれだけやっていただいている。そういう人たちも結局地域には行く。参考値であってもよいかもしれない。

事務局　　このようなところでもやっているということを教えていただいて、把握していくこともよいかと思う。他の関係団体が聞いて「うちもやっていこう」と取り組んでいただくことも広がりになると思うが、数字の把握はなかなか難しい。

事務局　　先生相手ということは、先生に「やさしい日本語」を教えていただいて、子どもに還元するということであろうか。

委　員　　教員の場合は、外国につながる子どもたちを指導するときに生かしてほしいということだろう。

委　員　　入口は、外国の子どもたちに対して、できるだけ「やさしい日本語」で指導しようということだが、相乗効果で、同じように言葉の理解に苦しんでいる日本の子どもたちもたくさんいる。教員が「やさしい日本語」、できるだけセンテンスの短い日本語を使うことによって理解が高まっていくという、相乗というような効果はある。教員が、子どもたちに「やさしい日本語」を使いましょうというのではなく、授業の中で教科言語という難しい言葉を並べずに、もっとやさしい言葉で理解できるように心がけましょうということである。ずらずらと長いセンテンスで話すのをやめようということを、各授業の中で実践している感じである。

事務局　　この33ページの取り組みの中で、主な事業として事業出しをしている「行政職員向け『やさしい日本語』の研修実施・普及」で、そのような実績把握をしたいと思っている。指標としては、やはり一般向けの数字で管理をしたい。両方把握はしていきたいと思うが、指標としては一般向けで考えて整理したい。

委員長　　何かご意見はあるか。委員、お願いします。

委　員　　43ページのプランの推進の部分だが、プランの推進体制のところで「めざす将来の姿を共有できるようホームページ等で本プランの内容を多言語で公表し、市民に周知します」とある。「ホームページ等」の中には、紙ベースの部分も準備していただくと思ってはいるが、ホームページだけではなかなか周知が行き届きにくい。本冊の準備をどれぐらいしているか、配布先など関係機関等で決まっているようなら教えていただきたい。

事務局　　来年度予算で、プランの印刷を紙ベースで行うことで予算取りをしている。冊

数がどれぐらいになるかは伝えられないが、プランは今年度中に完成し、それを多言語化して、概要版になるかもしれないが、印刷予算は要求をしている。

委　員　　承知した。

委員長　　アンケートなどで、「日常生活に必要な情報はどこから入手するか」に対する回答の中で、「友人から・知人から」と「インターネット」が多かった。やはり家族と知人などが外国人ならば、情報を収集する機会が少ないかと思う。そこはインターネットが必要だと改めて思う。紙媒体とネットの両方が必要であろう。その他プランについていかがか。

委　員　　今回の意見の所にもあったと思うが、目標数値などは、いくつかは上げてあるが上げ切れていない。どこまでどのような形で決めるかということもあり、目標設定が難しいということだと思う。一番大事なことは、プランの進行管理で具体的にどこまでどのようにやっていくか、新しい課題が出てくるときがあると思う。プランの進行管理は、第５章に書いてはいただいた。私たちは何となく理解するが、一般的には少し分かりにくいように思う。今回プランができ、次の年から、例えば年に何回どのような形で会議をするといったことが少し分かりづらい。次は「このような現状で、こことここはやれているけれども、ここは全然手をつけていませんよね」という、具体的な話になる。それが専門部会でよいのかということがまだ見えていない気がする。次は、そこが重要になると思う。もう少し整理をして書いていただくかしないと、少し難しいかと思う。何回会議があって、誰がそこに参加をして、どのような内容の話をするはずなのか。本当は目標があって、それに向かって進捗管理だけすればよいかと思うが、進捗管理というよりは、内容についても少し突っ込んでいかないといけないかと思う。

委員長　　これに関連して、他の委員のご意見はどうか。

委　員　　43 ページのいわゆるＰＤＣＡサイクル。現在、計画の策定でＰ。今、言われたのが Do の部分で、もう来年に取りかかろうとしているので、具体的に Do は「このようなことをします」ぐらい書いておいてもよいのではないか。来年、何回会議をして、誰がどこに取り組むかぐらいが分かっているものは、案ぐらいは書いておいてもよいかもしれない。

委　員　　その Do、Check、Action のＰＤＣＡサイクルの中身が分からない。どのように Do するか。報告会で終わるのか。少し見えない。

委員長　　これを実施する各団体が、「私がこういうことをやります」「私はこのように関わる」ということが具体的に分かるような書き方をすべきということか。

委　員　　そうではなくて、その中身、その事業自体をどのように管理していくのかが分からない。ただ市がまとめたものを報告して、私たちが追加して、確認するものなのか。もう少し突っ込んで、事業についても口を挟んでいくのか。どのような会議なのかが、少し見えにくい。

委員長　　これだと、確かに報告で終わってしまうのではないかと。次が見えてないということだろう。

委　員　　ＰＤＣＡサイクルでやるとは書いてあるが、それがどのような形なのか。多文化共生推進プラン委員会というものができるのか。

事務局　　多文化共生推進プラン委員会は、この会のことである。

委　員　　これが続くということか。

事務局　　そうである。条例にも記載しているが、進捗管理の部分もこのプラン委員会でしていただくという位置づけである。このメンバーについては来年 11 月 14 日までは任期であり、それもまた２年任期で継続し、このプラン委員会は設置される。進捗管理は、あくまでこちらの委員会に主体的にやっていただくことになる。

委　員　　その進捗管理は、例えば 10 月ぐらいに会議があったとして、「現状、半年でここまでやりました。あと半年、このような予定で、今年度は進んでいます。皆さんの任期は 11 月までです」という話か。私が尋ねたいことは、例えば「オール伊賀市」の会議がないのかというイメージ。「オール伊賀市」とは、それぞれがばらばらにやって報告するのではなく、共有することが大事かと思う。それが、ここの会議になるのか、別の会議になるのか。

事務局　　あくまでここが母体にはなるが、その下部組織として専門部会の設置がある。去年も推進プランを作るときに開催した。そちらには、策定委員の皆様と行政の職員を、プランを作ったときに行った形で集めて、「オール伊賀市」で話しができる設定を考えている。

委　員　　では、具体的な事業の進捗や評価というか、「ここが足りない」あるいは「これがよい、よかった」などということは、その専門部会で話されると。

事務局　　話せるとよいと思っている。このプランが、今年度成立する見込みで、行政については、それぞれ担当課から事業出しをしっかりさせようと思っている。このような事業をこのように進めていくという事業出しをし、こちらの委員会でも年度当初にその計画を見ていただいて、策定委員の皆さんにもんでいただいて、専門部会を開催し、１年間どうだったという委員会を、また反省としてさせていただく。委員会としては年２回程度で、専門部会をその間にさせてもらうという形をイメージしている。

委　員　　回数などは書けないのか。

事務局　　最低２回はするということである。その間に、また問題等があれば、皆さんにご協議いただく。

委　員　　問題というよりは、「オール伊賀市」で取り組むことが、今回の大きな考え方だと思う。市が目標設定して「皆さんやってください」ではなくて、皆で協力あるいは切磋琢磨してやるということだと思う。話し合う場がないと、切磋琢磨したり、情報共有したり、協力することができにくい。それぞれがつながればよいが、それが難しいと思う。

事務局　　それは専門部会と思っている。今年、プランを作ったときに、関係団体の皆様と役所の庁内各課を集めて、いろいろ意見交換をさせてもらった場があったと思うが、あの場が非常によかったのではないかと思っている。

委　員　　意味は何とか分かる。なぜなら、例えば皆さんはできることがある。伝丸や日本語教師など。でも、例えば私は普通に「ブラジル人です」という感じで、私は何をすればよいか、時々分からなくなる。ただ単にここへ来て、皆の言っていることを聞いて、突っ込んでいけばよいだけなのか。他に、もし何かできることがあるならば知りたい。専門部会があるが、私はその専門部会には入るのか、私はどうすればよいか、時々分からなくなる。どこへ入ればよいか、何を言えばよいのか、そこが難しい。今年はプランだったので、ある意味やりやすかったのだが、来年からまた違う Do などに入ると、では私はどうしたらよいのかという感じになる。そういうことも、前から私は少し気になっていた。

委　員　　委員の方は当事者にもなりうるし、仲介者にもなりうる、間になる人になる。私たちは、どうしても私たちの考えでやるけれども、やはり当事者の意見で「そうではない」と突っ込んでもらうことが、まず大事だと思うので、それはとても重要である。だから、どんどん突っ込んでもらう役でいてほしい。お伺いした中では、専門部会でもう少し具体的な事業の話をすると。確かに、前の専門部会は非公開だったが、私はよかったと思う。何ならば、公開ではだめなのか分からないが、具体的にいろいろな事業を話し合えたことは、それを聞いて「今度はこのような事業を展開すれば、よりよくなる」という発想が生まれる場が欲しかったので。それが専門部会になるということである。ただ、これを読んでも、少しそれが見えにくい気がする。市民の皆さんが、これは誰がどのようにまとめて進めていくのか、数値目標も少ないので分からないではないかと思う。

委員長　　あくまで、市民に読んでいただいて理解できる形にしていく必要がある。

委　員　　ＰＤＣＡサイクルとしてそのように書いてあるのだが、それが難しい。

事務局　　言いたいことは書き込んでいるつもりだが、皆様に見ていただいて分かりにくいのであれば、それが市民の意見だと思うので、もう少し検討したい。

委　員　　例えば、プラン委員会や専門部会などの囲みの中か横辺りに、何をする場など、役割的な内容を書き込むことはいかがか。「住民自治」や「企業・事業者」や「各種団体・ＮＰＯ等」の役割は、本冊の中にそれぞれの内容に応じた役割はあるが、委員会や部会が何をする場なのか、「このようなことをします」「そういう場です」などと、内容を図の所に加えてみてもよいと思う。

事務局　　条例を巻末につけることも思っていたが、やはり市民の皆さんから見て分かりにくいという評価をいただいている。委員がおっしゃったように、それぞれの役割を、もう少し分かりやすく書き加えて整理をさせていただきたいと思う。

委員長　　やはり市民から見て分かりやすい方がよい。

事務局　　事務局から説明した言葉を、プランの進行管理のページに付け加えてということでよろしいか。その説明でよければ、文言については事務局に任せていただいて、そのような内容を付け加えるという修正でいかがか。

委　員　　プランの推進はプラン委員会の会議で進捗管理をすることは理解できると思う。やはり専門部会が何をしてくれるのかを、委員のおっしゃるように、ふきだしか囲むかして、具体的な内容について協議しながら進めるということを書いて

いただくと、少し安心できる。

事務局　共有する場であって、意見を出していただける場であるということでよいか。

委　員　そうです、はい。

委員長　はい、ありがとうございます。多文化共生推進プランの最終案の承認をしてもよろしいか。発言したい方はないか。表現などの修正も検討するということで、多文化共生推進プランの第１期の最終案について、承認をさせていただく。

アンケートやパブリックコメントについてのご意見はよろしいか。１つ２つ気になったのだが、アンケートの４ページ、情報共有のところだが、生活の中で困っているところは、収入源と言葉が通じない、友達が少ないということもある。「友達がいない」が 41 人も回答があったことが少し気になった。コロナだからこのような形になっているのか、または例えば新たに来日してきている人も増えているので、それを指しているデータなのか。友達が少ないのは国籍などによるのか。ブラジル人などは長く、地域コミュニティの中で溶け込んでいる部分もあるが、新たに来日している方の中で、まだ友達が少なかったり、困り事が多いのではないかと思って気になった。

事務局　指標の現状値はアンケートの数値を使っているということで、初めに説明した。アンケートに関しては、毎年行っていく予定である。コロナ禍が落ち着いてきて、数字が 2021 年度のように高くなっていくのか、微増になっていくのか、微減になるのかを、毎年確認していこうと思っている。アンケートについては、今のところ、この設問で３年は続けたい。この第１期の期間は４年のスパンになる。この４年に対して、次の計画策定のために必要な設問が出てきたら、設問を変えていこうと思うが、いったん３年はこの設問で続けていこうかと思っている。経過を皆さんと共有できたらと思う。

委員長　ありがとうございます。よろしいか。

４．その他

○今後のスケジュール等について説明（事務局）

〈質　疑〉

委員長　質問があれば、ご発言いただきたい。

事務局　せっかくの機会なので、皆さんの情報共有などにもお使いいただきたいと思う。

委員長　何かあるか。団体に関してのご報告など。

委　員　やはりコロナもあり、先ほど困り事が増えているかもしれないというところもあったが、やはり格差というか、外国人住民の中でも頑張ってやっている方もいるが、一つ何か困り事が増えると、複雑に絡み合っており、本当にいろいろなことが大変になる。一般的な相談は、市役所で結構受けていただいているので、それほど多く増えたわけではないが、いくつか深刻な課題案件が増えている。「伴走支援」と呼んでいるが、毎日のようについて回って支援をしなければいけない案件が増えていると感じる。昔は１件、２件だったのでどうにかなったが、増えてくると社協や市役所の生活支援課など、いろいろな所と連携しない

といけない。連携しても本当に大変な状況なので、ぜひこの専門部会等の機会でも共有しながらやらせていただきたいと思っている。

地域の住民自治協議会も、いろいろな取り組みをされている。先ほど言った島ヶ原のボランティア協議会の「やさしい日本語」など。あとは、車を勝手に停めたり、ごみ出しなどの課題がいまだによく聞かれる。増えてはいないかもしれないが、減ってはいない。だから、地域住民としての活躍とまでは言わないが、一緒にやっていくという根本的な取り組みも、もっとやっていかなければならないと思う。最近、自治協に呼ばれて、どうしたらよいかということをよく聞く。この間は、阿山ハイツで話してくれないかと言われた。元からある課題と、より複雑な新しい課題がリンクして、コロナ禍で大変は大変かと思う。

委　員　　学校関係でも、永住・定住の方が増えたことによって、いろいろ複雑な課題が昨今ずっと言われている。最近の動きの中では、子どもたちの数が減ってきていることもあって、例えば、ＰＴＡの活動の中で、役員や地区委員に外国の方が参画することが増えている。よいことだと思う。私の学校でも、ＰＴＡ役員を決めるときや、地域の何かを決めるときも、すべての言語についての文書で発送することがだんだん増えつつある。もう一つは課題である。最近は、ベトナムの方が多くなっている。学校現場において、ポルトガル語・スペイン語・タガログ語についてのサポートはある程度できている。急ピッチでベトナムの方へのことがまだ追いついていない感じだが、そのような現状である。

委　員　　今年、学校へ通訳の仕事で行ったのだが、一つ思ったことがある。特に中学校へ行き、中学３年生の、高校へ行く前の三者懇などに入ると、先生たちの前では、お母さんと子どもたちは、普通に「分かりました。その高校へ行きます」という感じで、それで「納得していますか」「はい、納得しています」などという感じになる。しかし、私の通訳の仕事が終わると、「話してもよいですか」とよく声をかけられと、いろいろなことを聞かれる。半分以上の家族たちは、多分、心の中では納得していない。もう３年生の終わりか真ん中ぐらいになって、しかたないからこれで行くしかない。先生たちも、「あなたの点数では、それしか無理でしょう」などということを言われるから、それで納得するしかない。私が思うには、そのような気持ちで高校へ行ってしまうと、頑張らない子もいれば、途中で辞める子もいる。多分、親たちは、高校へ入るための必要な点数ややり方、例えば中間テストの点数が高校へ伝わるなどの詳しいことを分かっていない。だから、そういう説明を早めにしたほうがよいと思う。「来年３年生になるから、高校に必要なことはこういうことです。だから、この１年間をこうやって頑張らないといけない」と、子どもたちだけではなく、親たちにも伝えた方が皆で頑張れる気がする。もう一つは、先生たちも本当にその子がどこへ行きたいのかを知ってほしい。

委　員　　今のことに関連してだが、やはり永遠の課題かと思う。進路ガイダンスもやり、なるべく早く情報を渡すようにはしている。委員と同じように、私も通訳していて、通訳のあとの話は、スペイン語圏の人にも同じようにあることは確かで

ある。どうしても学校の先生は危ない橋を渡らせたくない。だめなことをできると言えないので、正直なところを学校の先生は言う。その子たちの気持ちを聞いてあげて、親に提案したこともあり、学校の先生に提案して、「一度ここを当たってみてくれませんか」という話をしたこともある。ただ、やはり学校は、どこの学校にもいけないという状況にはしたくないというのがあるので、安全策を取られるとは思う。そこのところと、行きたい所に行きたいのだという親と子どもたちの願いは、私はいつも通訳をしていて、真ん中に入ることは、よくある話である。だから、そうならないためにも、情報を早く伝えて、行きたい高校に誰もが行けるようにというところだとは思うのだが、なかなか難しい。

私が発言したかったのは、今回、私が病気になって入院してしまって、いろいろなことができなくなった時、私や委員のマンパワーでやっているのだとつくづく感じた。私たちがずっと伴走役をできるわけではなく、年も取ってくるわけなので、そうではないまちにしていく必要があると感じている。この推進プランができたところから、進捗管理をして、人に頼らないで生きていける人たちを作ることが大事だと、実は感じている。それは外国人だけではなく、日本人もそうだとは思っている。せっかくできたこのプランを大事にして、誰々がいなくなったからできないということがないようにしないとだめだと感じた。

また、コロナ禍で楽しいイベントがなくなり、友達が少ないというところだが、人と人との交流が少なくなっていることを、非常につらく思っている。最初に外国人労働者たちが増えた頃にやっていた楽しいイベントも大事かと、自分の活動している日本語の会のことを考えても思う。バーベキューや遠足などがなくなって、勉強だけではなくて交流できたり、大変なことだけではなくて「楽しいな」と思えるイベントは大事だと感じている。

委　員　　外国人防災リーダー教室のことを、少しお伝えしたい。今年初めての試みで、いろいろな立場の方にご協力いただきながら、教室を終えた。修了した方 14 名のうち、登録していただいた方は数名だが、早速、先日 12 月 24 日にしたフードパントリーの事業の際にも、その修了生の方がボランティアで駆けつけてくれた。受付で通訳をしたり、力仕事ができるからということで運搬をしたりと、実際に助けていただいた。私が感じたことは、地域の中のコミュニティも大事だが、企業、職場との関係というか、つながりが非常に良好である。企業の方の協力・サポートのもと、よい関係で、よい活動、よい生活、よい暮らしがある。経済的な部分だけではなく、人に何かしたい、自分ができることをしたい、人のために何か役立ちたいという、非常に温かい思いや気持ちを持たれた方、そして体力もあってエネルギッシュで、本当に頼もしい皆さんばかりだった。このような活動を、指標にもあるように、補助金は 3 年間だが、着実に増やしていけたら、その輪を広げていきたいと思っている。委員もおっしゃったように、このプランで決めたように、外国人だから日本人だからという区別なく、皆が一緒の方向を向いて、いろいろな取り組みを進めていくことは本当に大事だと思う。外国の方も弱者という感じではなくて、本当に頼もしく思った。気持ちも温か

く、エネルギッシュである。そのような機会に触れて、私も実際に感じた。このプランに基づいて、社協としては、外国人防災教室を必ず継続的に頑張って進めていきたいと感じたところである。

事務局　防災リーダーの補足をしたい。委員は社協の立場で入っていただいている。このリーダー育成事業は、伊賀市災害ボランティアセンターに請けていただいている。その事務局を社協にしていただいており、このようなご意見をいただいた。事務局を持っているおかげで、そのような人材とのつながりを社協自身も持っていただいたということで、輪が広がったというお話かと思う。

委員長　やはり外国人住民の育成は必要であろう。もちろん「やってもらおう」という人もいるが、やはりさまざまな方がいるので、それを活かしていく。彼らにとっても、役割があるということはいろいろなメリットが得られる部分がある。お互い、「オール伊賀市」の形で取り組むことが必要だと思う。

委員の発言の進路のことだが、やはり進路ガイダンスが10月や9月では遅いのではないかと、私も前から気にはなっている。3年生でやるならば春にするなり、1学期、2学期でよい点数を取れるように目指していけるようにすべきではないかと思う。もちろん早く、2年生に声をかけることも大事だが、結局スイッチがつくのが3年生に入ってからなので、3年生の早いときから行っていくのがよいと思う。

事務局　事務局の宣伝だが、外国人とつながるこのちらしも、夏と冬と2回実施している。去年2021年から、ロサ先生やロサ先生のお兄さんであるカルロス先生と協働でさせていただいている。当事者であった自分たちが、後輩を支援していこうという動きが出ている表れである。これは、市が「してください」と言ったのではなくて、「協働でしませんか」ということでオチャンテご兄妹からお話があった。このようなところに、教える立場として、ボランティアティーチャーとして「僕も参加して教える」と高校生が来てくれたりする。小学校・中学生の子どもたちを支援する学習教室をするのだが、そのような取り組みと、外国にルーツを持つ子どもたちが助け合っている。それで、委員のように、自分の高校のときの話をできる先輩が、「実はこうだよ」と年の近い人たちからアドバイスをもらえる場の交流にもなっていく。このようなことが必要だということで、協働で行っていることを、多文化共生課としても進めていきたい。年代間交流もできる。小学1年生の子から中3までいる。既卒で高校進学を望んでいる子もいる。そのような子も、同年代の人と触れ合う機会、日本語で触れ合う機会になるので、ぜひご紹介いただきたい。

委員長　ありがとうございます。

委　員　活発なご意見、ありがとうございました。委員の方がおっしゃるとおりだと思っている。少し、委員のお話を聞いてこうしたらよいかと、企業の立場ならばこう求めるということで、少し考えた。このような感じで求められたら非常に分かりやすいかと思っている。総括があって、指標があって、年度があって、それに対する方策があって、その上にプラン委員会があって専門部会がある。この

ようなマトリックスにすると、より Do に近づいていく。「絵に描いた餅」にならないようにするためには、このようになるかと思う。これは適当に名前をつけたが、これは例えばエクセディで言ったらここに防災が入っているなどという形になれば、より Do になるのではないか。

委員長　ありがとうございます。ぜひ参考にさせていただければと思う。

この際に、何かあれば。なければ、これで会議を終了させていただく。委員の皆さんには、円滑な進行にご協力いただき、ありがとうございました。

以　上